

令和5年度 府中市立府中第三小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	- 文章の内容を正しく理解することに個人差がある。 - 作文や学習の振り返りなどを書くのが困難なことがある。 - 話し手が伝えたいことや、大事なことを落とさずに聞く力が弱い。	- 叙述から大事な言葉を見付け、サイドラインを引いたり、印を付けたりして、内容を正しく理解できるようにする。 - 体験したことや見聞きしたことを書く活動を意図的に取り入れ、書き方の指導をしながら書く経験を積ませる。 - 相手の話を聞いて質問したり、質問に答えたりする活動を取り入れ、話し手が伝えたいことを考えながら聞けるようにする。		
算数	- 繰り上がり繰り下がりのある計算で速さと正確さで個人差が大きい。 - 自力解決の際に自分の考えをもつことができない児童がいる。 - 答えは分かっているが、根拠を示して自分の考えを説明できない児童がいる。	- 授業の中で、計算カードやワークプリントを使い繰り返し練習させる。 - 導入場面で、既習事項の振り返りを行う。その日の問題との差異点に注目させることでその日の課題を明確に把握させる。 - 児童同士や児童対教師のめあてに迫るための対話を取り入れ、児童がある程度見通しをもってから自力解決できるようにする。 - 自分の考えをノートに書かせ、友達の考えと比べることで根拠に気付かせる。		
生活	意欲的に取り組んでいるが、気付きにはいたっていないこともある。	- めあてを意識させ、観察するポイントや調べる内容を示し取り組ませる。 - 学習過程や振り返りなどで、つぶやきや分かったことを共有する機会を増やす。		
音楽	鍵盤ハーモニカでは、リズムよく演奏することができる児童とできない児童の個人差が大きい。	- 階名や指番号で繰り返し歌う。 - 個別対応で教えたり、指ごとに分けてシールを貼ったりする。		
図画工作	- 自分のイメージや考えを大切に活動に取り組むことができる。しかし、自分で作った作品を大切にしようとする思いは強くない。 - 道具を正しく使う技能が不十分である。	- 道具や用具を試す時間を設け、それぞれの特徴を捉えることができるようにする。そして、それを生かし、自分のイメージに合った作品になるよう指導する。机間指導や鑑賞の時間を通して作品のよさを伝え、自信がもてるような声掛けを心掛ける。 - 導入時に、道具の扱い方について書画カメラを用いて手元を映し、製作活動の中でも正しい使い方を身に付けられるようにする。また、注意事項を伝えたり、落ち着いて活動ができるよう環境を整えたりする。		
体育	どの児童も意欲的に授業に参加しようとしている。しかし、運動体験が少なかったり、体の動かし方がぎこちなかったりして思うように体を使うことができない児童もいる。	- 道具を使った運動遊びやあらゆる体の部分を使い、様々な感覚や動きを体験させる。 - ボールを投げる、蹴るなど日常では使わない動きを体験させる。		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。